

# 大門町企業団地内遺跡調査報告書(3)

-布目沢北遺跡第4次調査報告-

1995

大門町教育委員会  
富山県埋蔵文化財センター

## 例　言

- 1、本書は、富山県射水郡大門町堀内地内に所在する布目沢北遺跡の第4次調査報告書である。
- 2、本調査は、民間会社の造成に伴う事前調査であり、大門町教育委員会を調査主体者とするものである。
- 3、調査は、平成5年5月24日に試掘調査を、翌平成6年9月12日から10月11日まで本調査を19日間に亘り行った。

- 4、調査参加者は以下の通りである。(五十音順)

試掘調査担当　岡本淳一郎　伊佐　智法（富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事）

本調査担当　高橋真実（富山県埋蔵文化財センター文化財保護主事）

池田浪子　石黒　勇　稻垣イミ子　小川昭二　奥谷くに子　郷田為吉　坂森笑美子

坂森政子　田中たま　轟　れつ　長谷幸作　北条みな　真木義則　松井伊翔

松本宣子　南と志子　森田好子　薬師正信　山本かず子

- 5、本調査に用いたグリッドの設定には、山順測量設計に委託した。

- 6、本書図版中に使用した方位は磁北を指示し、数字は海拔を示す。

- 7、第1図遺跡位置図は、国土地理院発行の『富山』（1/50000）を使用した。

- 8、本書の作成にあたり下記の方々およびセンター職員に御助言・御援助をいただいた。以下に記して感謝の意を示す。(50音順)

安達通夫　岡本淳一郎　春日折也　高橋千晶　武田健次郎　名苗静子　長谷川徹

三島道子　山本正敏

## 目　次

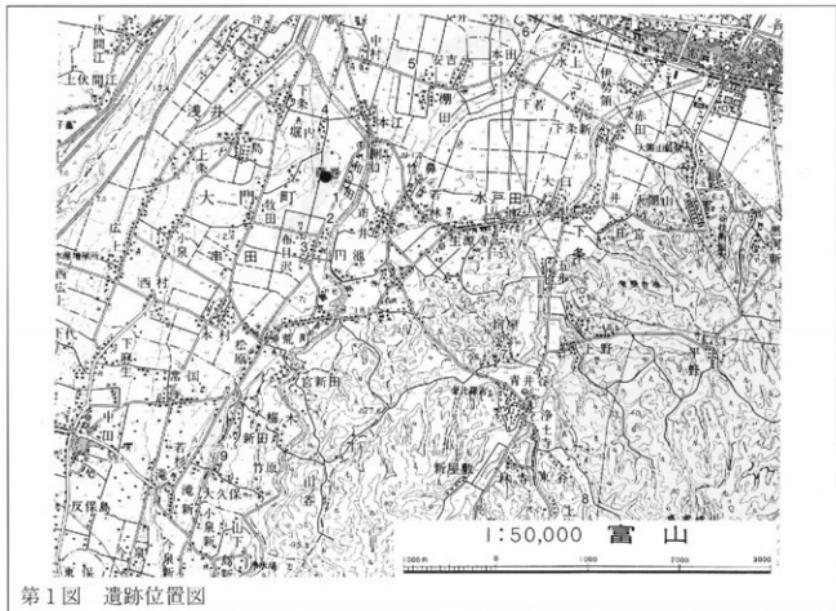
1、周辺の環境と遺跡の立地	1	c、近代の遺構と遺物	4
2、調査の経緯	2	4、まとめ	4
3、確認した遺構と遺物	3	引用参考文献一覧	
a、遺構の概要	3	写真図版	
b、弥生時代の遺構と遺物	3	報告書抄録	

## 第1章 周辺の環境と遺跡の立地

布目沢北遺跡（県遺跡番号.382008）は、富山県射水郡大門町堀内地内に所在する。現在、大門町企業団地が開発され營まれている地点であり、付近には県道富山小矢部線が東西に伸びる。本遺跡の調査履歴は、平成3年に遡る。当時大門町では集中化した業務団地の建設を計画しており、本地点は北陸自動車道小杉インターチェンジに比較的近く纏まった土地が得られる場所であった。しかし、付近において弥生時代等の遺物が採取されていたことから大門町教育委員会と県埋蔵文化財センターでは事前に遺跡の広がりと性格等を掴むための試掘調査を行った（県埋文センター1990.外）。

射水平野の中央部を北流する庄川の支流である和田川と神楽川などの小河川により挟まれた扇状地上に存在する。海平面との比高差は約10mを測り、周囲はやや起伏にとんだ地形である。また、本地点は、付近に自然涌水地が認められ、従前から付近から出土した遺物群は各時代を通じて生活に適した環境であったことを物語る。調査区の現況は水田であった。昭和30年代には場整備が行われ、包含層が消失するなど地形的にかなり削平を受けている。

周辺の遺跡としては、布目沢遺跡（2）、布目沢東遺跡（3）など弥生時代から中世にかけての複合遺跡があり、方形周溝墓が丘陵上に確認された串田新遺跡（9）も南に2km離れて存在する。さらに旧石器時代から近世までの複合遺跡群の流田（7）、太閤山遺跡群（8）などもある。また、近年は場整備が進み、付近での弥生時代の遺構が多く確認されつつある。地形図では示せなかったが、玉造遺跡などの專業的な遺跡も若干ではあるが、増えつつある。平地上と段丘上の弥生遺跡の区分についてはここでは触れないが今後の解題の一つといえよう。



第1図 遺跡位置図

## 第2章 調査の経緯

### ・試掘調査までの経緯

平成5年1月、農地転用により大門町布目沢の企業団地内に所在する民間企業の駐車場兼資材置場造成の計画が、富山県埋蔵文化財センターに大門町教育委員会より提示された。同地点は、周知の遺跡である布目沢北遺跡の遺跡範囲に含まれ、また、第3次調査地点（山本・押川1992）の隣接地であることから、弥生時代に帰属する方形周溝墓群の存在が予測された。そこで原図者・大門町教育委員会・県埋蔵文化財センターの3者により協議を行った。これを受け、平成5年5月24日に試掘調査を行った。

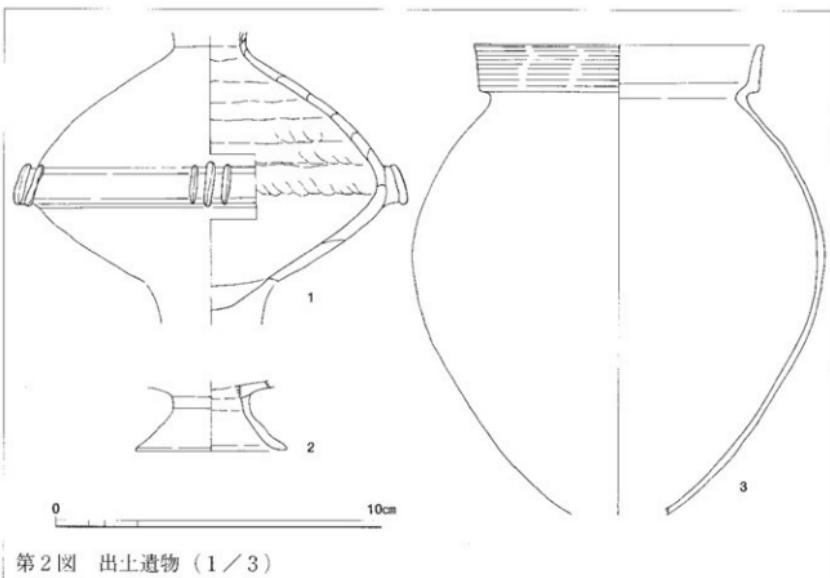
造成対象面積は約2000m<sup>2</sup>であった。試掘トレンチは6本を設定し、造成予定地全域を対象として行った。この結果造成予定地内の約1/4にあたるおよそ450m<sup>2</sup>に遺構および遺物の散布が確認された。

これを受けて、再度原図者・大門町教育委員会・県埋蔵文化財センターの3者により協議を行い、翌平成6年度中に遺構および遺物の確認された約450m<sup>2</sup>について本調査を行うこととなった。

### ・本調査の経緯

本調査に先立ち、平成6年7月28日に原図者・大門町教育委員会・埋蔵文化財センターの3者により協議を行い、調査方法等を打ち合わせた。平成6年8月31日には調査の最終的な打ち合わせを大門町教育委員会・埋蔵文化財センター間で行い、本調査に臨んだ。

本調査は、平成6年9月12日から開始し、10月11日（延19日間）までおこなった。調査に当たっては第3次調査の隣接地点ということもあり、また、同調査と同種の遺構が検出される可能性が試掘調査の結果によ



第2図 出土遺物（1/3）

り指摘されていたため、グリット方向を同一のものとした。基準とした単点は、3点設定し、順にTP-1～TP-3と名称を付した。また、調査区内にコノエダブルによってベンチマークを設定した。座標値は、海拔9.00mであった。

表土はバックホーにより除去した後、人力により精査し遺構確認を行った。この結果、方形周溝墓と看手される遺構と溝状の遺構・土坑を数基検出した。遺構確認面まで表土は約10センチメートルと薄く各時代の遺物包含層は一切検出され無かった。遺構は切合関係より上位に位置する溝状遺構より調査を開始した。当初、第3次調査の第1地区南部において検出された律令期の溝の検出の可能性があったが、残念ながら確認できなかった。

以上の調査を行い、無事終了した。

## 第3章 確認した遺構と遺物

### 1. 遺構の概要

前章において触れたように本調査区で確認できた遺構は、近現代の溝と弥生時代の土坑群である。配置状況からいくつかの土坑では、方形周溝墓を構成する。第3図にその遺構配置状況を示した。以下弥生時代の遺構から記述する。

### 2. 弥生時代の遺構と遺物

#### ・第1号方形周溝墓（第4図）

調査区南東側で検出された1辺約5mを測る小型の方形周溝墓である。5基の土坑により構成され、占有面積は約19.2m<sup>2</sup>を測る。四方を周溝により取り囲み、四隅がひらくタイプの方形周溝墓である。主軸は、N-60°-Wを測るが、埋葬施設は、それよりやや北に振る。遺物の出土はなく、明確な時期は不明である。各周溝は、ほぼ同一の規格により構成され、長軸で4.8m、短軸で4mを測る。覆土は、主として埋葬施設方向に片寄った堆積が観察されることから、第1層から第3層までの堆積は、墳丘盛土の崩落土と考えられる。また、各周溝内の覆土中に水中堆積土の堆積は、観察されないことから、空堀様の周溝だったと考えられる。埋葬施設の大きさは、長軸で1.8m、短軸では0.7mを測る。確認面からの深度は、約20cmであった。覆土は、第6層までの堆積土が、棺を含めた埋葬土で、第7・8層が棺を入れる際の掘り方と考えられる。覆土の洗浄を行ったが、器形・時期不明の土器片が1点検出されたものの、第3次調査で検出されたような、玉類の出土は見なかった。

#### ・第2号方形周溝墓（第5図）

調査区北側やや中央よりで、検出された。埋葬施設は検出されなかったものの、第1号墓と同様な四隅ひらくタイプである。しかし、周溝の規格は同一でなく大きく2つの規格に偏っている。南側周溝と西側周溝は、長軸1.5m、短軸0.5mの小型の規格による周溝であり、北側周溝と東側周溝は、長軸1.9m、短軸0.8mを測る大型の周溝である。また、北側周溝は、さらに外側に平行関係にある土坑によって、二重周溝を形成する。外側の土坑には、覆土中位に正位を保って中央に壺形土器（第2図-1）・東側に壺形土器（第2図-3）

が確認され、覆土などの情況から供獻された土器と考えられる。埋葬施設は攪乱され確認できなかった。

・第3号方形周溝墓（第6図）

北側周溝、東側周溝、西側周溝の3方向の周溝のみの方形周溝墓である。埋葬施設は確認されなかった。一辺5.1mを測る。

・第1号土坑（第2・3図）

長軸で6mを測る単独の大型土坑であるが、情況的に方形周溝墓を構成する土坑である可能性が高い。高坏脚部（第2図-2）が出土した。

・第2号土坑（第3図）

不定形で遺物を確認できなかった。覆土の情況などから弥生時代の土坑として判断した。

3. 近代の遺構（第3図）

土坑1基・溝状遺構2条を確認した。遺物は、陶磁器片をわずかに確認できたに過ぎない。覆土的には、弥生時代の覆土と明瞭に区分でき、また、紋まりなどはほとんどない。あるいはほ場整備前の水田等に伴うものか。主として北東方向への伸びが確認できるが、土坑は、両壁の立ち上がりが浅く、また不定形であり、坑というよりも窪みに近い遺構である。

## 第4章 若干のまとめ

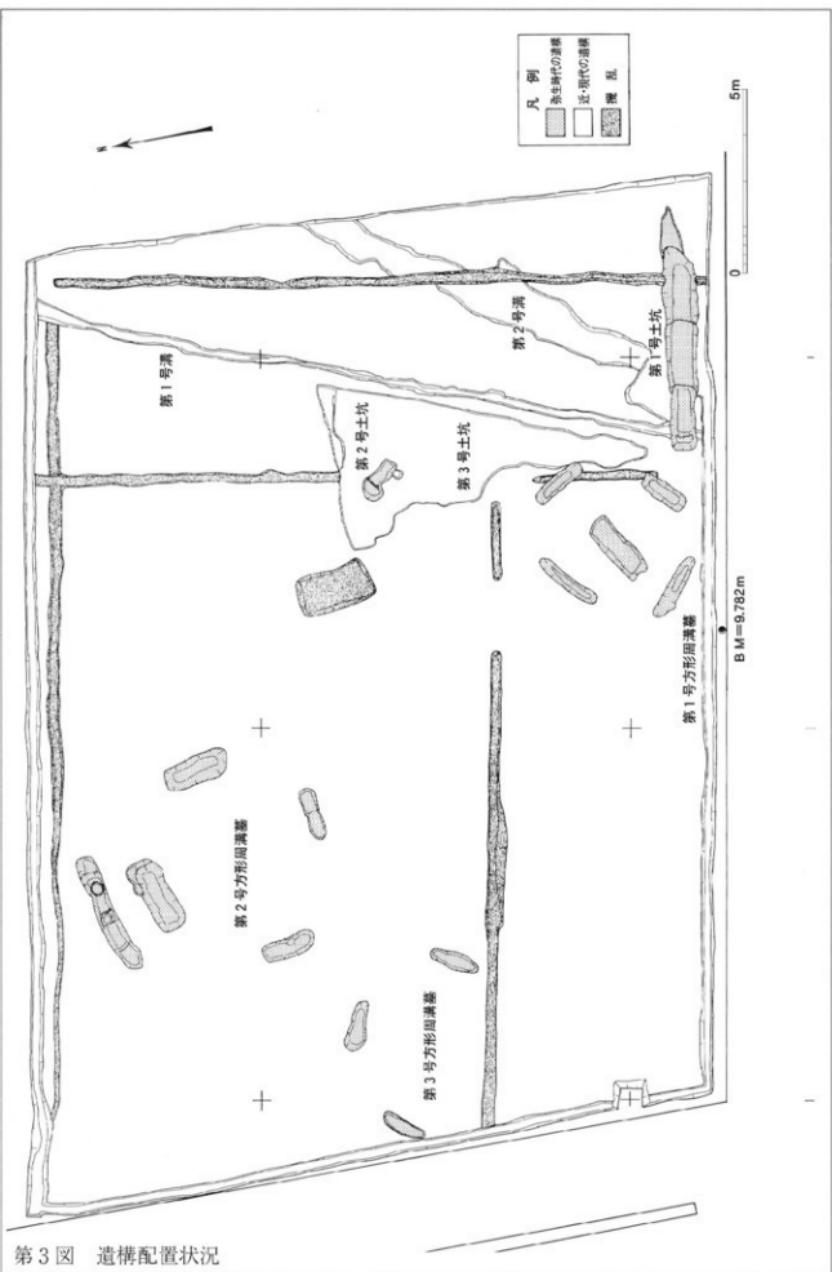
以上、布日沢北遺跡第4次調査を報告した。この調査地点では方形周溝墓が主要な遺構であることは既に触れたが、以下に特筆すべき項目を記述する。

1. 確認できた3基の方形周溝墓は、第3次調査で認識された方形周溝墓の3区分のうち平面積60m<sup>2</sup>以下の概ね小型の方形周溝墓である。

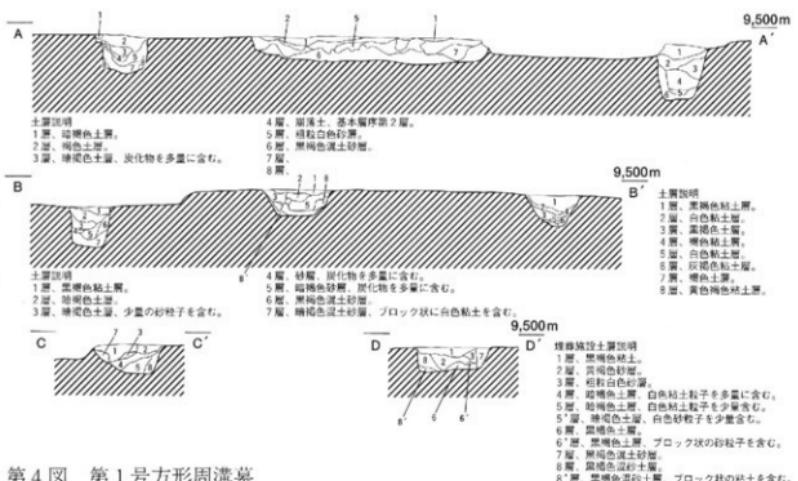
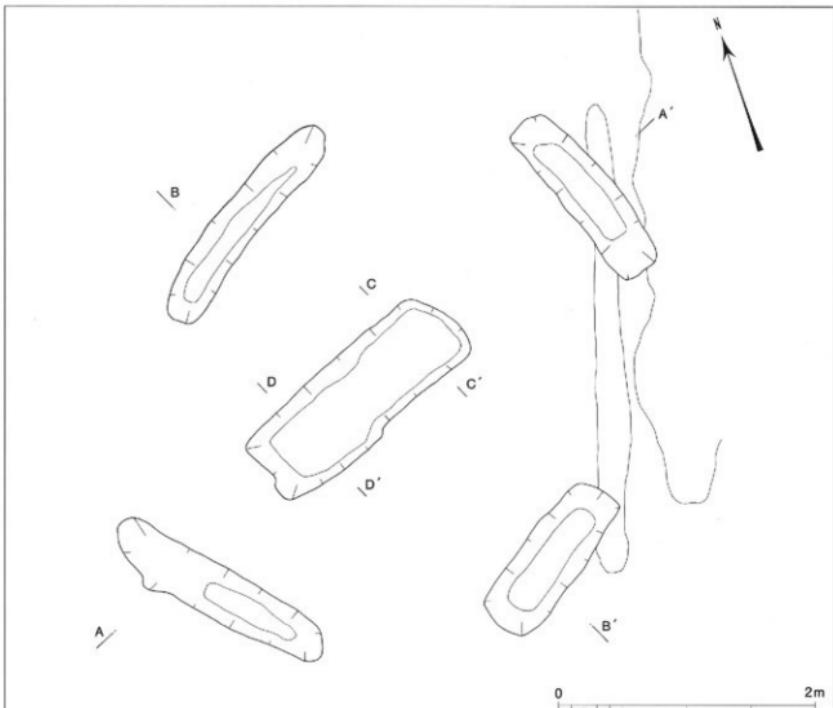
2. 第1号方形周溝墓の埋葬施設の覆土の情況から組合せ式木棺が使用された可能性がある。

3. 生活遺構である住居などの遺構ではなく、集落の外れに位置すると考えられる。

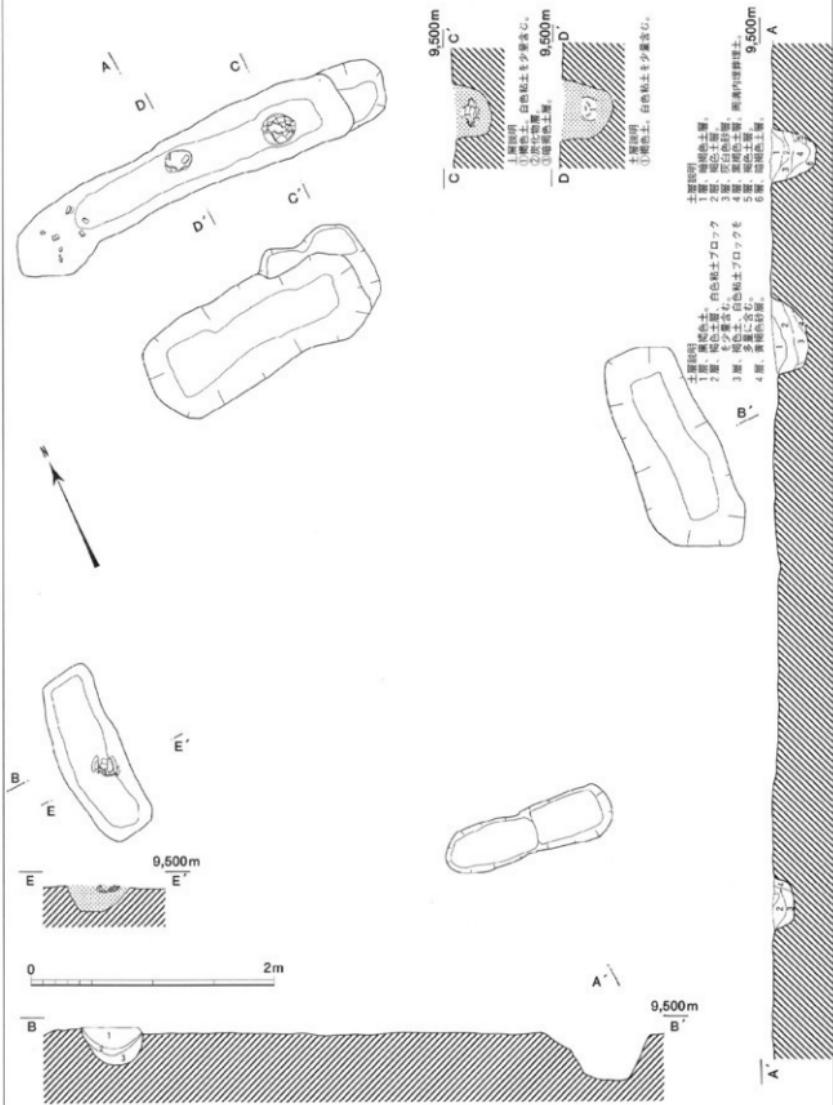
以上の事項から、付近の調査にあたっては遺構の種別による分布状況を改めて把握する必要がある。特に3次調査では、第1地区の住居と方形周溝墓の時刻の差異が報告されているが、平面として造構が形成された地区毎の時刻的な変遷をたどることにより、北陸における弥生時代集落の形成パターンに重要な示唆をえることができよう。



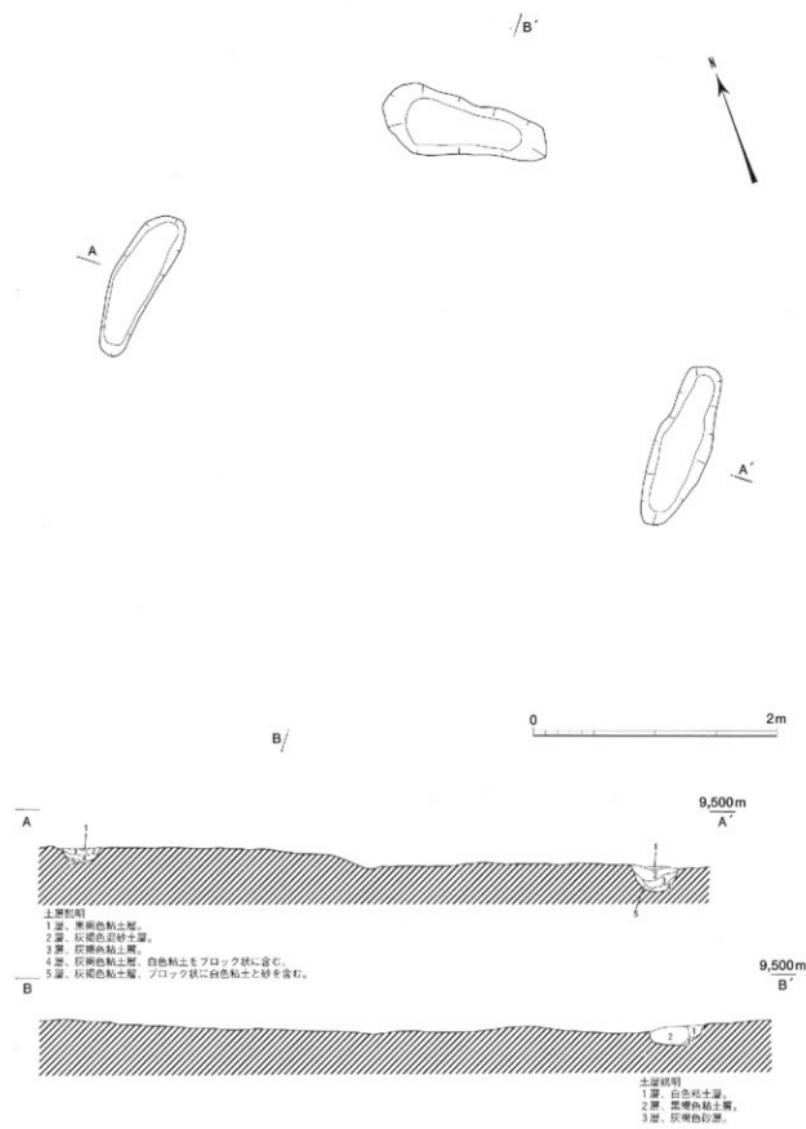
第3図 遺構配置状況



第4図 第1号方形周溝墓



第5図 第2号方形周溝墓



第6図 第3号方形周溝墓



1 調査区全景



3 遺物出土状況



2 第2号方形周溝墓



4 第1号方形周溝墓



5 近世以降の溝

# 報告書抄録

ふりがな	だいもんまちきぎょうだんちないいせきちょうさほうこくしょ							
書名	大門町企業団地内遺跡調査報告書							
副書名	布目沢北遺跡第4次調査報告							
巻次	(3)							
シリーズ名	大門町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号								
編著者名	高橋真実							
編集機関	富山県埋蔵文化財センター							
所在地	〒930-01 富山県富山市茶屋町206-3							
発行機関	大門町教育委員会							
所在地	〒939-02 富山県射水郡大門町二口1081							
発行年月日	西暦 1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° °	調査期間	調査面積	調査原因	
ぬのめざわきたいせき 布目沢北遺跡	とやまけんいもづくに 富山県射水郡 だいもんまちきぎょうだん 大門町堀内 49-1	3 8 2	0 0 8	36° 42' 28.22"	137° 03' 09.53"	平成6年9月12日 ~10月11日	450	資材置場兼 駐車場造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
布目沢北遺跡	集落・墳墓	弥生時代	方形周溝墓	3基	壺形土器			
			土坑	2基	甕形土器			

大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(3)

## 布目沢北遺跡第4次調査報告

平成7年3月31日発行

編集・発行 大門町教育委員会  
富山県埋蔵文化財センター

印刷所 日興印刷株式会社